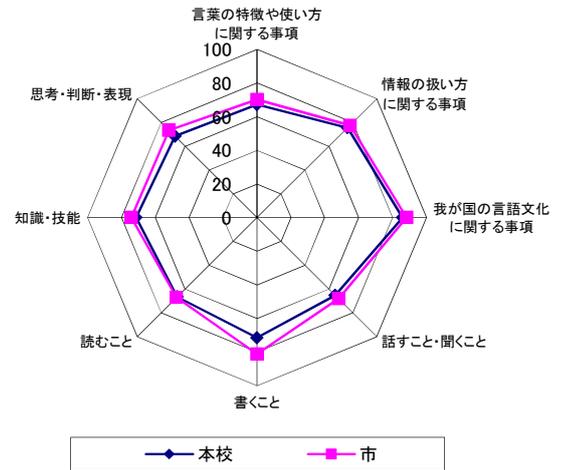


宇都宮市立宝木中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.2	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	75.5	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	85.9	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	65.3	68.2	67.4
	書くこと	71.4	81.1	71.7
	読むこと	66.7	67.2	61.3
観点別	知識・技能	71.4	74.2	67.9
	思考・判断・表現	68.5	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

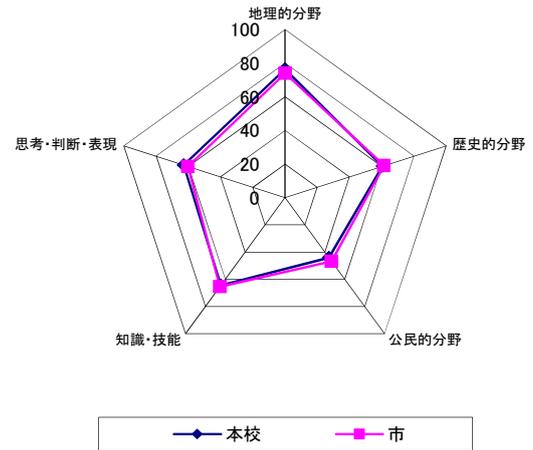
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	正答率は、市平均を3.0ポイント下回った。 ○「類義語」についての理解の問題では、市平均より2.4ポイント上回った。 ●「助動詞」について理解の問題では、市平均より5.0ポイント下回った。	・授業の開始時に行う漢字の小テストは、漢字の反復練習の一助となっている。今後も継続して行っていく。 ・言葉の意味や内容を正しく伝えるためにも大切な文の法則については、身近な例文を使い、苦手意識をなくしていけるように工夫していく。
情報の扱い方に関する事項	正答率は、市平均を2.1ポイント下回った。 ●「論理の展開の仕方をとらえる」問題では、市平均より7.7ポイント下回った。	・「理由と主張」・「原因と結果」など、具体例を用いながら内容と内容とのつながりが理解できるようにしていくとともに、読み手に分かりやすく伝えるための作文指導を通して、展開の仕方が理解できるように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市平均を2.4ポイント下回った。 ○「現代語を手掛かりに古典を読む」問題では、市平均より2.3ポイント上回った。 ●「歴史的仮名遣い」の問題では、市平均より14.6ポイント下回った。	・古文や漢文は繰り返し音読し、リズムや仮名遣いに慣れさせていく。 ・過去の高校入試の問題を取り入れたり、短い古文の文章に数多く触れたりすることで、苦手意識をなくしていく。
話すこと・聞くこと	正答率は、市平均を2.9ポイント下回った。 ○「話の展開を予測しながら聞く」問題では、2.2ポイント上回った。 ●「話の問題を予測しながら聞く」問題では、0.7ポイント下回った。	・「話すこと」では、「スピーチ」の授業などで、聞き手に話し手の伝えたい内容を正しく理解してもらえるように、内容構成を指導する。 ・「聞くこと」では、聞き取りテストの回数を学期ごとに4回実施しており、話を聞くポイントを確認する機会を定期的に設けている成果が徐々に現れてきているので、継続していく。
書くこと	正答率は、市平均を9.7ポイント下回った。 ●「指定された長さで文章を書く」問題では、17.9ポイント下回った。	・書くことに抵抗を感じている生徒が多いため、作品に対して自分の考えをまとめたり、感想を書いたりする機会を増やす。 ・文章の書き方や構成の仕方などからステップを踏んで、細かく指導していく。
読むこと	正答率は、市平均を0.5ポイント下回った。 ○「文章の表現の仕方」の問題では、市平均より6.2ポイント上回った。 ●「文章の論理の展開」の問題では、2.2ポイント下回った。	・説明的文章の読み取りを苦手とする生徒が多い傾向があり、要約するときのキーワードの選び方や内容をまとめるときのポイントなどを、細かく指導していく。 ・毎朝の読書時間など読書指導を充実させながら、多くの作品に触れ、楽しみながら読み味わえるような機会を多く設けていく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	76.4	74.0	67.9
	歴史的分野	60.5	61.5	56.1
	公民的分野	44.2	46.9	40.7
観点別	知識・技能	64.4	65.5	60.6
	思考・判断・表現	62.8	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

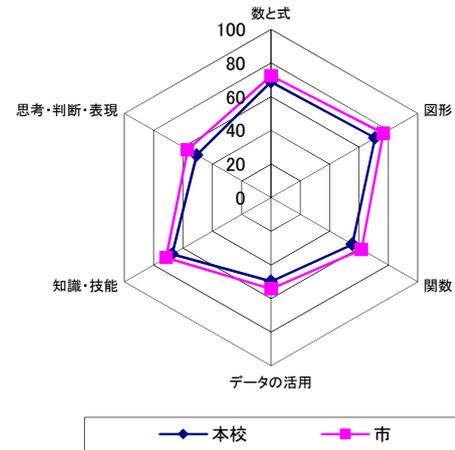
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>正答率は、市平均を2.4ポイント上回った。</p> <p>○全ての単元で、市の平均を上回った。</p> <p>○日本に関する問題の正答率が高く、日本の地理的特色についてよく理解できている。</p> <p>●資料をもとに記述する問題の正答率が低く、複数資料を組み合わせる問題が不得意であるといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数資料を活用し、多面的・多角的にまとめられるような問いを工夫する。 ・ICTを活用し、複数資料をもとに読み取れる事などを共有することで、全体の資料読解能力の向上を図る。 ・導入部分で身近な事例を取り上げ、地理と私たちのつながりを意識させ、苦手意識を作らないよう工夫する。
歴史的分野	<p>正答率は、市平均を1.0ポイント下回った。</p> <p>○「近世の日本」の単元では、市の平均正答率とほぼ同様である。</p> <p>●「古代までの日本」の単元では市の平均を2.2ポイント下回った。</p> <p>●資料をもとに、正しい組み合わせを選ぶ問題の正答率が低く、基礎知識と結び付ける問題が不得意であるといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りのポイントを明確にしたり、なぜその資料が使われたのか考えさせたりすることで、学んだ知識を活かせるような問いを工夫する。 ・年表を活用し、時代の流れと出来事を大まかに掴み、出来事を並び替える問題に対応した問いを工夫する。 ・正誤や地図と出来事の組み合わせ問題に対応するため、日々の授業で間違えやすい所を例示する。
公民的分野	<p>正答率は、市平均を2.7ポイント下回った。</p> <p>○「人間の尊重と日本国憲法」の単元では市の平均を2.7ポイント下回ったが、憲法の基本についておおむね理解できている。</p> <p>●説明文をもとに空欄にあてはまる語句を書く問題の正答率が低く、基礎的知識が不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々変化する現代社会の問題に目を向けられるように、定期的に導入部分で身近な問題や最近のニュースを取り上げ、公民的分野への関心を高める。 ・毎時前回の復習を取り入れ、基礎的知識の定着を図る。 ・法律や憲法などがなぜ定められたかなどの背景を考えさせることで、思考・判断・表現力の育成を図る。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	68.8	72.5	71.3
	図形	70.9	76.5	68.1
	関数	55.5	61.7	50.3
	データの活用	49.8	54.2	43.5
観点別	知識・技能	67.4	71.5	66.7
	思考・判断・表現	50.7	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

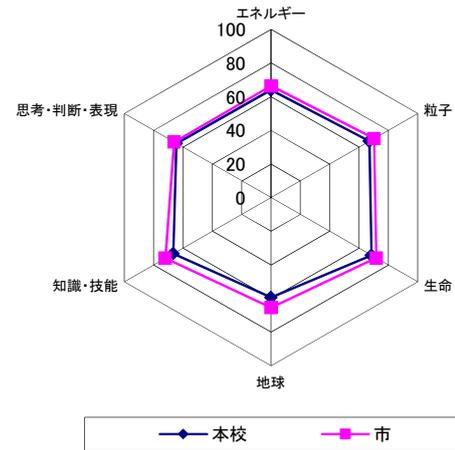
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>正答率は、市平均を3.7ポイント下回った。</p> <p>○同類項をまとめる計算やかっこを含む計算など基本的な計算については、正答率が高く、市の平均ともほぼ同じであり、おおむね良好である。</p> <p>●乗法の公式を使って式を簡単にする問題は市の平均より6ポイント低かった。また、平方根の考えを使って2次方程式を解く問題は、市の平均より11.5ポイント低かった。</p>	<p>・乗法の公式の確認をし、定着させ、多くの問題を解き、式の展開や因数分解がスムーズにできるようにしていく。</p> <p>・2次方程式は、式の形によって解き方が決まるので、繰り返し復習することにより、どの方法で解くことが適切であるか考えさせ、定着を図る。</p>
図形	<p>正答率は、市平均を5.6ポイント下回った。</p> <p>○図形の移動についての問題や三角形の合同条件についての問題は正答率が高く、おおむね良好である。</p> <p>●垂線の性質を利用する作図については、市の平均より7.2ポイント低かった。</p>	<p>・図形の作図については、垂線や垂直二等分線、角の二等分線のかき方と性質を確認し、条件に合った作図はどれなのかよく考えさせていく。</p> <p>・図形の性質については、よく整理をして覚えさせ、様々な問題に対応できるようにしていく。</p>
関数	<p>正答率は、市平均を6.2ポイント下回った。</p> <p>○式から表を選ぶ問題や表からグラフを選ぶ問題については、市の平均とほぼ同じであった。</p> <p>●グラフからできる図形の面積を求めたり、長さを求めたりする問題など関数の利用の問題では、市の平均を下回っている。</p>	<p>・関数は、式と表、グラフがつなげて考えられるようにし、基本的な内容の定着を図る。</p> <p>・グラフと図形を合わせた問題など利用の問題に対応できるようにするため、多くのパターンの問題を解き、理解を深めていく。</p>
データの活用	<p>正答率は、市平均を4.4ポイント下回った。</p> <p>○確率の問題では、市の平均とほぼ同じであり、おおむね良好である。</p> <p>●データの分布の傾向を見る問題では、どの問題も低い正答率である。</p>	<p>・ヒストグラムや箱ひげ図の読み取りについては、中央値、階級値、四分位範囲といった言葉の意味を明確に覚えていないので、よく確認し、問題を解くことにより、定着を図る。</p>

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	64.1	66.5	61.2
	粒子	67.1	70.2	62.3
	生命	68.5	71.8	65.7
	地球	59.4	65.4	61.0
観点別	知識・技能	66.6	72.0	67.3
	思考・判断・表現	64.5	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

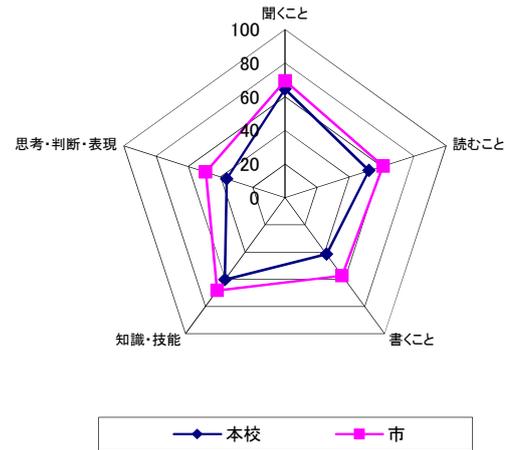
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>正答率は、市平均を2.4ポイント下回った。</p> <p>○電力量を求める問題では、市平均より1.1ポイント、全国平均より6.3ポイント上回った。</p> <p>●位置エネルギーのグラフから運動エネルギーのグラフを推測する問題では、市平均より9.0ポイント、全国平均より5.8ポイント下回った。</p>	<p>・グラフを読み取ったり、描いたりすることを苦手としている傾向が見られるので、実験時にグラフを描いたり、グラフを読み取ったりする機会を増やし、力を入れて指導を行う。</p>
粒子	<p>正答率は、市平均を3.1ポイント下回った。</p> <p>○水溶液を区別する問題では、市平均より2.4ポイント、全国平均より5.0ポイント上回った。</p> <p>●分解についての問題では、市平均より11.8ポイント、全国平均より3.2ポイント下回った。</p>	<p>・実験の操作や考察の問題で市や全国の平均を下回ったので、実験時に操作の仕方をよく確認し、考察の時間を十分にとる。</p> <p>・用語の意味が十分に定着していないので、小テストの回数を増やし、覚える機会を設けるように指導を行う。</p>
生命	<p>正答率は、市平均を3.3ポイント下回った。</p> <p>○植物のからだについての問題では、市平均より0.3ポイント、全国平均より10.0ポイント上回った。</p> <p>●遺伝子についての問題では、市平均より11.5ポイント、全国平均より16.0ポイント下回った。</p>	<p>・遺伝の仕方について苦手としている生徒が多かったので、図でわかりやすく説明し、生徒の苦手意識克服を図る。</p> <p>・問題演習の機会を増やし、知識が定着しているか確認できるようにする。</p>
地球	<p>正答率は、市平均を6.0ポイント下回った。</p> <p>○前線による雲のでき方についての問題では、全国平均より0.3ポイント上回った。</p> <p>●寒冷前線の記号についての問題では、市平均より12.7ポイント、全国平均より18.7ポイント下回った。</p>	<p>・前線の種類や雲のでき方が混同しやすく、理解が定着していないので、図や動画を用いて丁寧に指導する。</p> <p>・鉱物の種類については、図や実物を用いて覚えさせる。</p>

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	64.6	69.4	63.8
	読むこと	52.1	60.8	55.6
	書くこと	41.7	57.5	47.8
観点別	知識・技能	60.4	68.3	64.1
	思考・判断・表現	36.1	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>正答率は、市平均を4.8ポイント下回った。</p> <p>○「聞くこと」については、学習活動の多くをあてていることもあり、市正答率より低いものの、参考値を上回った。</p> <p>●「内容理解」や、「対話文の応答」においては、設問により、市正答率大きく下回った。特に、「対話の内容を聞き、その意味を理解して資料をもとに英語で答えている。」では、開きが大きかった。</p>	<p>・学習活動において、「聞き取り」に関する生徒の意欲は高い。授業においては今後も、「聞くこと」の活動を多く取り入れ、習熟度を高めていく。</p> <p>これまでは、正解を選択肢の中から選ぶ、受動的な「聞き取り」が多かった。今後は、聞き取ったことをもとに、自分の考えを加えて解答したり、聞き取りと他の資料とを組み合わせることで正解を導いたりする、能動的な「聞き取り」を行うことができるよう、工夫する。</p>
読むこと	<p>正答率は、市平均を8.7ポイント下回った。</p> <p>○教科書を用いた学習では、「読むこと」の学習活動が豊富である。「さまざまな英文の読み取り」「長文の読み取り」では、設問により市正答率を上回った。</p> <p>●受動態、現在完了の基本的な語形語系・語法の理解、及び対話の流れをとらえたりメールの内容をふまえて解答したりする設問について、市正答率を大きく下回った。</p>	<p>・教科書で与えられた文や文章に、生徒は意欲的に取り組み理解しようとしている。しかし、教科書本文においては、各文が長く複雑で、1ページあたりの文の量、及び新出語句が多いことから、理解に多くの時間を費やしている。今後、「読むこと」における内容理解は、概要をつかむ程度にとどめ、時間短縮を図る。その上で、読んだことに自分の考えを加えて解答する段階へ進むことができるよう、学習活動を工夫する。</p>
書くこと	<p>正答率は、市平均を15.8ポイント下回った。</p> <p>○「書くこと」の正答率は、いずれも市正答率を下回ったが、設問によっては、全国正答率を上回った。</p> <p>●単語の並べかえによる英作文の「SVOOの文」「as～as…の文」、場面に応じて書く英作文の「whenを使って時をたずねる」「相手が一番好きな季節をたずねる」、3文以上の英作文の各設問で、市正答率を大きく下回った。</p>	<p>・GIGAスクール構想に基づく一人一台端末を活用し、授業改善を図った。その過程で、「書く」活動の一部が端末への入力に置き換わったり、生徒が「翻訳機能」に頼ってしまう場面が見られたりするようになった。しかし、「書くこと」には、手で文字を書いたり、文構造に倣い自力で作文したりする活動の充実が求められる。今後は、教科書の内容理解と、「書くこと」の技能充実の両立を図ることができるよう工夫する。</p>

宇都宮市立宝木中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎「わかる授業」のより一層の推進	(1)『分かる授業』の推進 ①「本時の目標(めあて、ねらい)」をつかむことのできる明確な指示	「学校の授業がどの程度わかりますか」について ○1年生 74.5%(市 84.9%、昨年度 83.7%) ○2年生 75.0%(市 81.3%、昨年度 76.3%) ●3年生 72.4%(市 81.4%、昨年度 72.0%)
	②話し合い活動の積極的な導入	「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している」について ○1年生 80.6%(市 79.7%、昨年度 79.3%) ●2年生 85.9%(市 81.9%、昨年度 78.1%) ●3年生 77.1%(市 82.6%、昨年度 78.0%)
	③「ふりかえり」活動の徹底	「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」について ○1年生 73.5%(市 75.1%、昨年度 82.2%) ●2年生 74.2%(市 74.2%、昨年度 66.7%) ●3年生 62.9%(市 73.3%、昨年度 66.1%)
◎家庭学習ノートを活用など、家庭学習の一層の充実	(2)家庭学習の習慣化	「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」について ○1年生 48.0%(市 43.7%、昨年度 71.9%) ●2年生 66.4%(市 38.4%、昨年度 44.7%) ●3年生 47.6%(市 43.5%、昨年度 49.2%)
		「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」について ○1年生 56.1%(市 59.6%、昨年度 65.9%) ○2年生 64.1%(市 55.2%、昨年度 46.5%) ●3年生 61.9%(市 65.1%、昨年度 63.6%)
		「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」について ○1年生 74.5%(市 74.0%、昨年度 81.5%) ○2年生 78.9%(市 69.2%、昨年度 68.4%) ●3年生 72.4%(市 75.2%、昨年度 66.1%)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- (1) 『わかる授業』の一層の推進に向けて
- ① 「本時の目標(めあて、ねらい)」の提示の徹底及び、提示内容の工夫を行う。
 - ・毎時間の学習課題に即した目標(めあて、ねらい)の提示の仕方への工夫も行う。
 - ② 効果的なノートの活用
 - ・教科担任による板書の工夫や学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導を、より一層充実させる。
 - ③ 生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫
 - ・教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業公開」を実施することで、教師間の学び合いを通じた授業力の向上を図る。
 - ④ 話し合い活動の積極的な導入
 - ・授業の中で、感染症対策を講じた上で、生徒同士の意見交換の場を意識的に増やし、学習活動に積極的に臨めるよう工夫する。
 - ・グループ活動や発表の場面などにおいて、教科担任のコーディネートにより話し合い活動をより一層充実させる。
 - ⑤ 「ふりかえり」活動の徹底
 - ・ワークシートやチェックテストなどを活用して、毎時間の学習課題に即した振り返りを確実に実施する。
- (2) 家庭学習のより一層の充実に向けて
- ① 学習に対する家庭の関心を高める工夫
 - ・三者懇談、教育相談、学校だよりなどを活用し、学習に関する情報提供を充実させる。
 - ② 自主学習ノートの点検、アドバイス、賞賛。
 - ・学級担任や学年教員による、家庭学習の内容の点検と、コメントの記入等による助言やがんばりを認める指導を充実させる。
 - ③ 家庭学習の仕方を明示、説明
 - ・「家庭学習の手引き」を活用し、生徒には年度始めのオリエンテーションで、保護者には保護者会等で家庭学習の仕方などに触れていく。
 - ・定期テストへ向けての学習や、テストの振り返りなど、定期的に教科担任から復習方法の指導を行う。